

宮城県公文書館年報

第2号

平成14年度

宮城県公文書館

Miyagi Prefectural Archives

公文書館の概要

1	設置目的	1
2	業務内容	1
3	沿革	1
4	組織	2
5	予算	2
6	施設・設備	2

平成14年度事業の概要

1	収蔵・収集状況	5
2	調査	6
3	整理	6
4	保存対策	6
5	利用状況	7
6	広報普及	8

平成15年度事業計画	11
------------	----

公文書館の概要

1 設置目的

宮城県公文書館は、「宮城県公文書館条例」(平成12年宮城県条例第132号)に基づき設置された施設であり、歴史資料として重要な公文書等を継続的に収集・保存し、県民共有の文化遺産として後世に伝えると共に、開かれた県政の一環として収蔵資料を広く公開することを目的とする。

2 業務内容

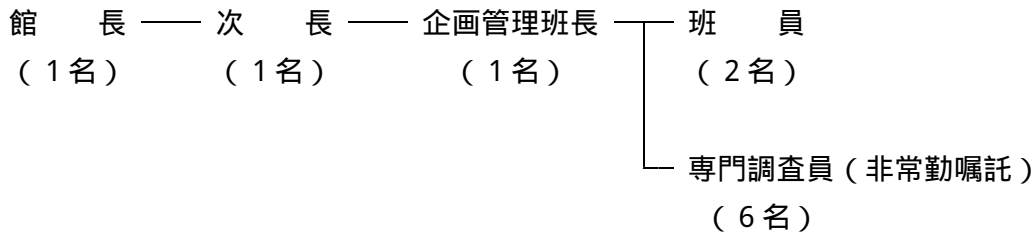
公文書館の主な業務は次のとおりである。(宮城県公文書館条例施行規則第2条)

- (1) 歴史的価値を有する公文書その他の記録(以下「公文書等」という。)の保存に関する
こと。
- (2) 公文書等の閲覧その他の利用に関すること。
- (3) 公文書等の調査研究に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、公文書館の設置の目的を達成するために必要な事業。

3 沿革

昭和63年 6月	公文書館法施行
平成元年度 ~	保存期間満了文書の中から歴史的・文化的価値の高い公文書の選別・収集・保存を開始
元年11月 ~ 2年 3月	宮城県公文書館構想庁内ワーキンググループを設置する。
2年10月 ~ 3年 3月	宮城県公文書館(仮称)建設検討委員会及び建設検討ワーキンググループを設置する。
3年 7月 ~ 4年 3月	宮城県公文書館(仮称)建設懇話会を設置する。有識者7名
4年 3月	宮城県公文書館(仮称)建設懇話会から知事へ公文書館建設について提言する。
4年10月 ~ 5年 3月	宮城県総合情報センター・公文書館(仮称)建設基本構想を策定する。
5年 4月	他施設(国際交流プラザ)との併設を検討する
9年 7月	新図書館建設による旧図書館利活用庁内ワーキンググループ設置
10年 5月 ~ 10年12月	旧図書館耐震診断(1階, 2階で補強が必要とされる)
11年 1月	公文書館建設基本構想(平成5年3月)を断念し, 旧図書館を活用することを決定
11年度	耐震補強・改修設計実施
12年度	耐震補強・改修工事実施
13年 4月 1日	宮城県公文書館条例・宮城県公文書館条例施行規則施行
13年 4月21日	宮城県公文書館開館(公文書館・みやぎNPOプラザ・生涯学習セミナールームの併設)

4 組織（平成15年3月31日現在）



5 予算

運営経費	34,869千円
広報普及活動費	392千円
県史編さん事業費	21千円
調査研究事業費	767千円
合計	36,049千円

6 施設・設備

(1) 施設

イ 名称	宮城県公文書館		
ロ 所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地		
ハ 施設の形態	みやぎNPOプラザ・生涯学習セミナールームとの併設施設		
ニ 敷地面積	4,942.8㎡		
ホ 構造	本館	鉄筋コンクリート造り	地下1階 地上3階建て
	書庫	〃	地上3階建て(5層式)
ヘ 建築年度	本館	昭和42年11月30日建築	
	書庫	昭和58年7月20日建築	
ト 建築面積	本館	1,153.39㎡	
	書庫	246.35㎡	
チ 延べ床面積	5,221.8㎡(本館4,040.7㎡ 書庫1,181.1㎡)		
リ 専用面積	公文書館	2,390.24㎡	
	みやぎNPOプラザ	1,261.56㎡	
	生涯学習セミナールーム	242.25㎡	

又 主要室面積（公文書館部分）

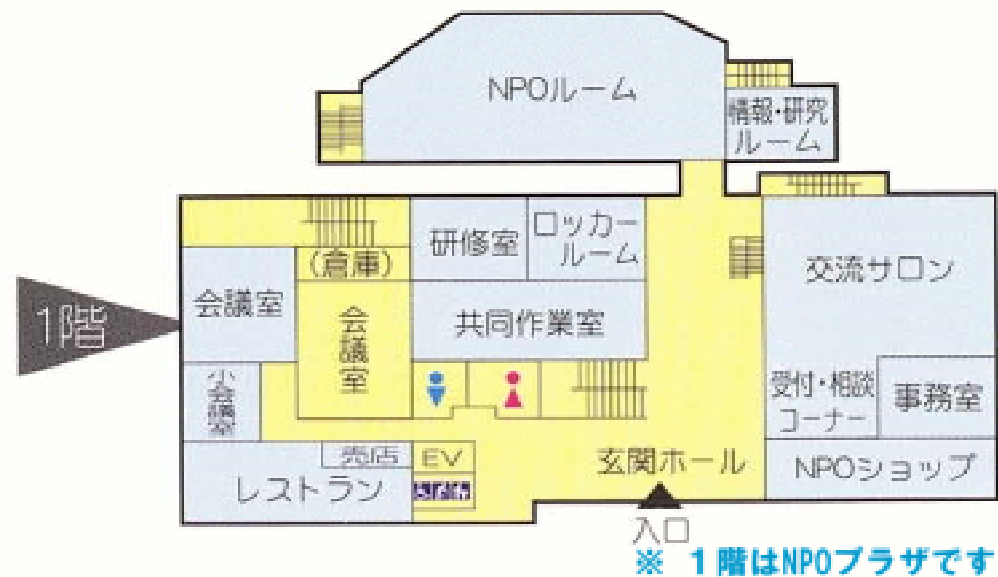
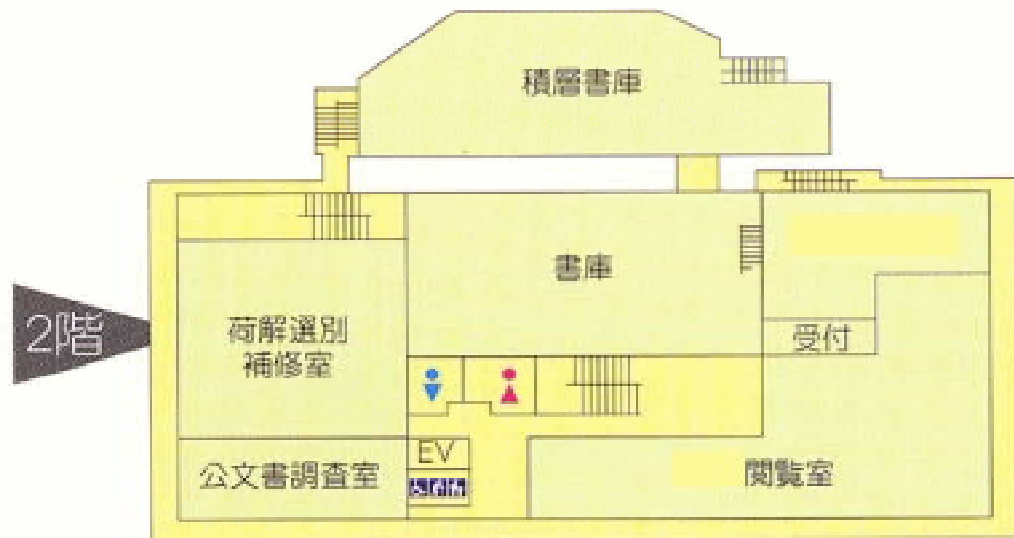
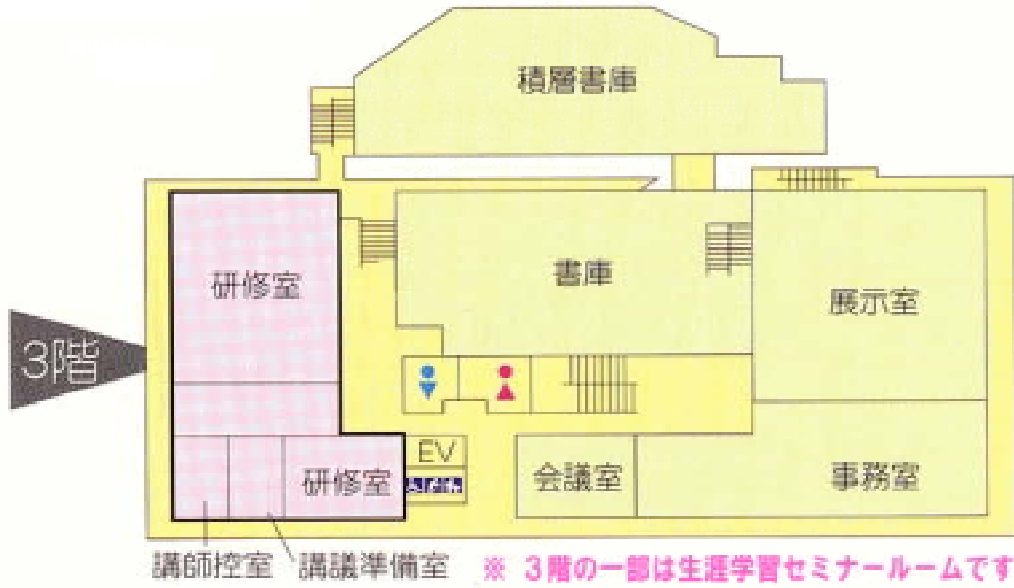
室 名		面 積	室 名		面 積
2 階	閲覧室	378.45 m ²	3 階	事務室	146.40 m ²
	公文書調査室	75.60 m ²		展示室	194.25 m ²
	荷解選別補修室	175.62 m ²		会議室	37.80 m ²
	書庫	232.46 m ²		書庫	227.44 m ²
小計	862.13 m ²	小計	605.89 m ²		

室 名		面 積
書 庫 棟	2 層	229.09 m ²
	3 層	234.95 m ²
	4 層	229.09 m ²
	5 層	229.09 m ²
小計	922.22 m ²	

(2) 設備

- ・昇降機設備 2 台
- ・閲覧用テーブル 16 卓（幅 120 × 奥行き 75 × 高さ 70）
- ・展示ケース（固定式） 3 面
- ・ " （移動式） 5 台（幅 200 × 奥行き 94 × 高さ 80）
- ・マイクロリーダー 1 台
- ・コンピュータ 7 台（公文書検索用 2 台）

館内平面図



平成14年度事業の概要

1 収蔵・収集状況

本庁・地方機関において保存期間の満了した文書の中から、歴史的・文化的価値があると判断されるものを選別し収集した。

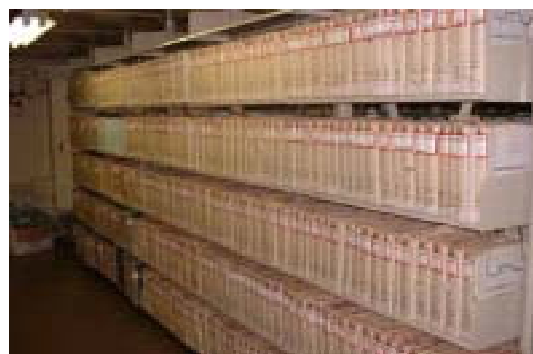
(H15.3.31現在)

区 分		平成13年度末 所蔵冊数 a	平成14年度引 継収集冊数 b	平成14年度末 収蔵冊数 a+b	備 考
公 文 書	明治期公文書	3,724	0	3,724	
	大正期公文書	1,563	0	1,563	
	昭和期公文書	18,081	657	18,738	
	平成期公文書	1,257	429	1,686	
	計	24,625	1,086	25,711	
絵 図 面		1,465	0	1,465	
行 政 資 料 等		496	2,184	2,680	
合 計		26,586	3,270	29,856	

	明 治 期	大 正 期	昭 和 期	合 計
30年経過文書 (昭和46年まで)	3,724	1,563	15,058	20,345



積層書庫2階



積層書庫4階

2 調査

収蔵資料のうち、特に閲覧要望の多い戦前の文書について、他の文書に優先して資料内容や、非開示情報の有無、破損・汚損状況等を把握するため内容調査を行った。

平成13年度内容調査済冊数				平成14年度内容調査済冊数				平成14年度末内容調査済冊数			
計	公開	一部非公開	非公開	計	公開	一部非公開	非公開	計	公開	一部非公開	非公開
4,481	3,036	608	837	2,232	1,764	182	286	6,713	4,800	790	1,123

3 整理

閲覧台帳での検索は時間を要するなど不便であるため、パソコンによる検索システムを職員で独自に開発し、文書完結後30年以上経過したすべての所蔵資料名と、内容調査が終了した資料の調査結果について登録を行った。

4 保存対策

(1) マイクロフィルム化・複製化状況

(H15.3.31現在)

区 分		平成13年度末 所蔵数 a	平成14年度 作成数 b	平成14年度末 収蔵数 a+b	備 考
マ イ ク ロ	公 文 書	6	24	30	
	行政資料等	151	0	151	県公報等
	絵 図 面 等	1,445	0	1,445	
	計	171	0	171	
複 製	絵 図 面	201	58	259	

(2) 書庫のくん蒸

当館の書庫は毒性の強い「臭化メチル」等は使用できない構造となっているため、毒性が弱いとされる薬剤を使用しくん蒸を行った。

薫蒸期間：平成14年12月9日～11日

使用薬剤：ミラクンS（ピレスロイド系フェノトリン）

5 利用状況

完結後30年経過した文書から個人情報等に配慮しながら広く公開し、閲覧や複写サービスを行った。

(1) 来館による利用状況

項目 月	閲覧室利用者数 a	資料閲覧利用 冊数	複写件数	展示室入場者 数 b	入館者数合計 a+b
4月	101	208	13	174	275
5月	71	88	19	202	273
6月	86	112	28	272	358
7月	99	148	27	246	345
8月	138	158	34	259	397
9月	126	186	40	268	394
10月	104	294	45	260	364
11月	131	232	23	301	432
12月	51	158	25	142	193
1月	69	120	18	1,506	1,575
2月	100	191	22	1,800	1,900
3月	67	149	23	1,762	1,829
合計	1,143	2,044	317	7,192	8,335
1日あたりの平均 (稼働日数302日)	3.78	6.77	1.05	23.82	27.6



閲覧室受付カウンター



検索用パソコン

(2) 館外貸出・出版物掲載等許可状況

区 分	件 数
館外貸出	2
出版物掲載等許可	9

(3) その他の利用状況

レファレンス件数		ホームページアクセス件数
(件)	うちメールでの件数	(件)
84	31	約 6,000

6 広報普及

県民に当館の存在を広く知ってもらおうとともに、公文書等の歴史資料を保存し後世に伝えていくことの重要性について、県民の理解を得るため、企画展・常設展の開催や、市町村公文書担当職員を対象とした研修会の開催、地元で開催された「みやぎの・まつり」への参加。

また、「公文書館だより」や「年報」をホームページ上で発行し、公文書館の存在を広くPRした。

(1) 展示

区 分	テ - マ	場 所	期 間	入館者数
常 設 展	明治期の出来事と村々の絵図	公文書館	平成14年 3月16日～8月31日	1,153人 (4/1から)
企 画 展	公文書にみる品井沼の開発 - 潜り穴の建設と新田開発 -	公文書館	平成14年 9月7日～11月24日	820人
企 画 展 (記念講演)	新田開発と潜り穴 - 品井沼干拓と元禄・明治潜穴 -	公文書館	平成14年 9月29日	70人
企 画 展 (移動展示)	公文書にみる品井沼の開発 - 潜り穴の建設と新田開発 -	松島町中央 公民館	平成14年 11月28日～12月2日	150人
企 画 展 (移動展示)	公文書にみる品井沼の開発 - 潜り穴の建設と新田開発 -	大郷町公民 館	平成14年 12月12日～12月18日	60人
常 設 展	明治期の出来事と村々の絵図	公文書館	平成14年 11月30日～3月30日	578人
貴重文書 展	明治初期の県政	宮城県庁 広報展示室	平成15年 1月6日～3月28日	4,641人

【企画展概要】

江戸時代、県内をはしる吉田川と鳴瀬川とが合流する品井沼一帯は、大小の湖沼が群在する一大湿地帯を形成しており、大雨の時には、しばしば鳴瀬川の逆流による洪水の被害を受けていました。この水害から地域を守り、豊かな水田を作るため、江戸（元禄以降）、明治、大正、昭和そして現在に至るまで、治水・開拓のための壮大な事業が展開されてきました。

企画展では、明治時代の潜穴建設から昭和のサイフォン建設までを中心に品井沼周辺の開発の歴史について、当時の貴重な文書や図面等で紹介しました。



企画展「公文書にみる品井沼の開発」

記念講演



(2) 公文書管理保存研修会

内 容	対 象 者	期 日	参 加 者
<ul style="list-style-type: none">・ 歴史的価値のある公文書とは 講師：公文書館職員・ 宮城県における情報公開と個人情報保護 講師：総務部 県政情報公開室職員・ 情報提供「大衡村の文書管理について」 講師：大衡村役場 総務課 千葉岳史氏	市町村文書担当職員	平成14年12月 6日	50人



研 修 会 風 景



(3) みやぎのまつりへの参加

地元で開催された「みやぎの・まつり」に参加し、パネル展示やパンフレットを配布し、地域住民に対して公文書館のPRを行った。

(4) 刊行物発行

平成14年5月に「宮城県公文書館だより」創刊号、10月に第2号を発行し、公文書館の仕事、利用案内、企画展・常設展の案内や所蔵資料の紹介等公文書館の存在を広くPRした。

また、平成14年8月には「宮城県公文書館年報」第1号を発行。どちらの刊行物も多くの方に読んでもらえるよう、ホームページ上で発行した。

平成15年度事業計画

1 収蔵・収集

本庁・地方機関で保存期間満了した文書から，歴史的文化的価値ある文書を評価選別し収集する

2 調査

レファレンス業務や閲覧申請等に迅速な対応ができるよう，所蔵資料の内容調査を進める。

3 整理

現在の検索システムは職員の操作により検索を行っているが，来館者が自由に検索できるよう改善を図る。

4 保存対策

- (1) 絵図面のカラー複製化
- (2) 公文書のマイクロ写真複製化
- (3) 書庫の薫蒸

5 広報普及

- (1) 常設展・企画展開催
- (2) 市町村担当職員研修

6 刊行物発行

- (1) 公文書館だより（ホームページ上）
- (2) 公文書館年報（ホームページ上）